

1 寺前通り (てらまえどおり)



西町

林泉寺の南を東西に結ぶ、地区の幹線道路。寺の前を通っているため、このように名付けられた。この道筋のほとんどが、旧掛塚街道と重なっている。



2 公会堂通り (こうかいどうどおり)



西町

町のほぼ中央を東西に結ぶ道路で、西町公会堂の北側を通るので、この名が付けられた。西町公会堂は、昭和 63 年 10 月に町民の積立金などで建て替えられた。



3 中通り (なかどおり)



西町

町のほぼ中央を南北に通じる、交通量の多い主要道路である。西町は、昭和 26 年に市に合併をし、現在は国道 150 号に沿って、急速に都市化が進んでいる。



4 中堤通り (なかつづみどおり)



西町

中通りと赤池通りの間を南北に結ぶ通りである。金原明善が堤を築いたために不用になった江戸時代の堤防が、道路として整備されたものである。



5 赤池通り (あかいけどおり)



西町

町の東寄りを南北に通じている道路である。赤池はこの辺りの地名で、昔、付近の池が、赤そぶ（水あか）により、赤い色をしていたために、名付けられたといわれる。



6 旧堤通り (きゆうていどおり)



西町

国道 150 号線の西町バス停から南西に走る通りである。この通りは、400～500 年ほど昔に築かれた堤防であったが、ほかに堤防ができたために道路となった。



7 蒲島水神社跡 (かほしますいじんじやあと)



西町

昔、この地に、蒲の葉に乗った三神様が流れ着いたことから、蒲島と呼ばれるようになった。この地に祭られていた三神様は、今は西町水神社に祭られている。



8 堤防跡通り (ていぼうあとどおり)



東町

町の北部、工業団地の西沿いを南北に走る道路である。昭和の始め、現在の堤防が築かれた。このために廃止された旧堤防の跡を、道路としたものである。



9 椎河脇山跡 (しいがわきやまあと)



東町

昭和初期まで、この地にあった小高い丘の跡である。丘の上には大正末期まで、椎河脇神社が祭られていたため、この名が付けられたといわれている。



10 城山通り (しろやまどおり)



東町

国道 150 号と一ツ宮橋通りを結ぶ通りである。城山は小高い丘で、椎河脇神社が祭られている。戦国時代、この地をめぐる争いがあったと伝えられる。



11 小学校通り (しょうがっこうどおり)



東町

東町公民館の横から東に入る道路である。昭和 12 年に県道五島天竜川停車場線ができるまで、地域の児童の通学路として親しまれていた。



12 一ツ宮橋通り (ひとつみやばしどおり)



東町

東陽中学校の南を東西に結ぶ道路である。当地域の開墾にあたり、祭られた椎河脇神社は、一ツ宮とも呼ばれ、付近の橋の呼び名ともなった。



13 権現堤通り (ごんげんづつみどおり)



東町

河輪会館西方を南北に通る、かつての堤防の道路である。戦いに敗れた徳川家康が、この地で村人に助けられたという言い伝えから、権現堤の名が付けられた。



14 南海道 (みなみかいどう)



河輪町

この道路は東は掛塚町との連絡道路として渡船を利用したものである。当時東海道に対して南海道とも言われており、室町末期より明治の後半まで、戦略上の感いは浜松藩の江戸詰諸藩士に糧秣その他を送った道と言われ、対岸掛塚十郎島には徳川時代中期頃まで港があり、五百石・千石船が往来していたそうである。



15 掛塚街道 (かけつかかいどう)



河輪町

この道路は、掛塚橋とともに大橋を経て浜松旧国道に至る道で、明治 38 年日露戦争の凱旋道路として突貫工事で明治 39 年完成した。当時、日本一の長い木橋として有名をさせたものである。昭和 30 年新掛塚鉄橋開通とともに裏街道となった。



16 天坊堤通り (てんぼうづつみどおり)



河輪町

掛塚木橋の跡地から南に通じる道路で、かつて「天坊堤」と呼ばれていた堤防の跡である。昔は、この堤防に松並木が続いていたといわれる。

